

科目ナンバリング		G-EDU47 58821 PJ46									
授業科目名 <英訳>		ケーススーパーヴィジョンII Practice in Case Supervision II				担当者所属・ 職名・氏名		教育学研究科 教授 桑原 知子 教育学研究科 教授 岡野 憲一郎 教育学研究科 教授 高橋 靖恵 こころの未来研究センター 教授 河合 俊雄 教育学研究科 准教授 田中 康裕 教育学研究科 准教授 松下 姫歌 人文科学研究所 准教授 立木 康介 教育学研究科 准教授 西 見奈子 教育学研究科 講師 梅村 高太郎			
配当 学年	修士	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 前期	曜時限	金3,4	授業 形態	実習	使用 言語	日本語
共用科目											
【授業の概要・目的】											
<p>「ケーススーパーヴィジョンI」に引き続いて、本研究科附属心理教育相談室において担当する事例について、個別の臨床実践指導（スーパーヴィジョン）により、個別指導を行う。これを通して、見立て、ケースマネジメント、臨床心理面接に関するさまざまな位相の知（技法を含む）を、さらに深く体得していくことが目的である。</p>											
【到達目標】											
<p>自らの事例を客観的にとらえ直し、心理臨床実践に生かせるようになること。一方で、自らを内省的に振り返り、事例に深くコミットできるようになること。</p>											
【授業計画と内容】											
<p>担当事例について、各自に割り当てられた臨床実践指導者（スーパーバイザー）のもとで、原則として週に1回報告し指導を受ける。指導方法の詳細に関しては、スーパーバイザーと事前に十分に相談すること。</p> <p>また、各自が受けている指導に関して、授業担当教員と他の履修生を含むグループで共有する機会が必要に応じて設けられることもある。</p> <p>授業は、原則として、半期15回以上おこなわれる（なお、スーパーヴィジョンの回数としては一年で30回以上おこなわれる）。</p>											
【履修要件】											
<p>「インテークカンファレンス」「臨床心理実習 A（心理実践実習）」「ケースカンファレンス」も併せて履修すること。</p> <p>教育学研究科以外の学生は履修不可・受講は、臨床心理学コースの学生に限る。</p>											
----- ケーススーパーヴィジョンII(2)へ続く -----											

ケーススーパーヴィジョンII(2)

[成績評価の方法・観点及び達成度]

授業に積極的かつ真摯に取り組む姿勢が必要であり、それらを総合的に判断して評価する。
具体的には、スーパーヴィジョンの実施状況、その準備やとりくみ、レポート等をもとに、到達目標の観点に照らし、教育学研究科の評価基準に従って評価する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

(参考書)
授業中に紹介する

[授業外学習(予習・復習)等]

- ・担当した事例について、その体験を細やかに振り返る作業をおこなう。
- ・自らの言動や理解についてのあら捜しをすることが目的ではない。クライアントとセラピストの心に生じること、関係に生じること、よりよく心を関与させていくことが大事である。
- ・その意味で、心に生じること、関係に生じることを、よく見ていくために、記録のとり方や振り返り方自体を工夫してみるとよい。

(その他(オフィスアワー等))

日本臨床心理士資格認定協会、日本臨床心理士会の定める、2つの倫理綱領を遵守すること。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。